



上野東京ライン停車に 向けた基本協定を締結しました

本市では、川口駅の混雑緩和はもとより、再加速する東京一極集中の中で、今後、首都圏近郊の都市間競争を勝ち抜くための原動力になるものとして、中距離電車停車に向けた検討やJR東日本との協議を進めてきました。

こうした検討や協議を経て、4月24日、上野東京ライン停車に向け、相互に協力して取り組みを進めていくため、「川口駅上野東京ラインホーム及び自由通路等整備に関する基本協定」をJR東日本と締結しました。



基本協定の主な内容

- ①上野東京ライン停車のためのホームと必要となる鉄道施設の整備
- ②自由通路の整備
- ③店舗の整備

基本協定では事業の内容を①②③のとおり定め、設計と工事の施行はJR東日本が実施します。

また、①②③と駅周辺の整備に関して、「川口駅周辺まちづくりビジョン」の実現に向け、本市とJR東日本は相互に連携して取り組みを進めていきます。

基本協定の内容やこれまでの検討経緯に関する詳細は市ホームページをご確認ください。



✓ 費用負担

- ・①②に要する費用は市が負担
(JR東日本の店舗などの補償の取り扱いは別途協議)
- ・③に要する費用はJR東日本が負担
- ・共通して必要となる費用は双方が負担
- ・その他、JR東日本が自己施策を行う場合に要する費用はJR東日本が負担

✓ 施設などの財産帰属・維持管理

- ・新しく整備する施設などのうち、自由通路を市が所有し、ホーム・コンコースなどの鉄道施設をJR東日本が所有
- ・施設などの維持管理、大規模改修はその所有者が実施

上野東京ライン停車により見込まれる効果

- 駅の混雑緩和に加え、川口駅から東京駅や品川駅までの所要時間が短縮！
- 将来的な羽田空港アクセス線（仮称）の開業による羽田空港へのダイレクトアクセスの実現により、さらなる利便性の向上が期待！
- 通勤・通学や川口駅への来訪がしやすくなることにより、定住人口や関係人口*の拡大が期待！

※関係人口…居住地は別の地域であるが、その地域に魅力を感じ訪問するなど、多様に関わる人々

【川口駅再整備想定図】



今後の予定

今年度以降、測量・設計を順次開始します。測量・設計を数年実施した後、上野東京ラインのホーム供用開始までには10～12年程度の工事期間を要します。

